

# 文化財になった練習船

○横浜みなと博物館企画展「日本の練習船～海の上の学校」(2021年2月27日～5月9日開催)の「3 文化財になった練習船」コーナーで紹介した練習船及び関連写真です。

○各船のコメントは、画像提供団体等のWEBサイトやパンフレット等を参考に横浜みなと博物館で作成しました。



## 国指定重要文化財 明治丸(めいじまる)

明治丸は、明治政府が英国グラスゴウのネピア造船所に灯台巡視業務用に発注し、1874(明治7)年に竣工した鉄船(現在の船はすべて鋼船)です。特別室やサロンを備えた豪華な仕様の新鋭船で、灯台巡視業務だけでなく、明治天皇も乗船するロイヤルシップの役目も兼ねていました。1875(明治8)年、小笠原諸島の領有権問題が生じた際には、日本政府の調査団を乗せた明治丸は、英国船より早く小笠原に到達しました。このことによって、小笠原諸島はわが国の領土となりました。また、1876(明治9)年、明治天皇が東北・北海道巡幸の際、青森から乗船され函館を経由し7月20日に横浜に到着されました。この日を記念して1941(昭和16)年に「海の記念日」が制定され、1996(平成8)年に国民の祝日「海の日」となりました。およそ20年間、灯台巡視船として活躍した明治丸は、1896(明治29)年に商船学校(東京海洋大学の前身)に譲渡されました。それからは係留練習船として1945(昭和20)年までの約50年間に、5,000余人の海の若人を育てました。1978(昭和53)年には、日本に現存する唯一隻の鉄船であり、鉄船時代の造船技術を今に伝える貴重な遺産として国の重要文化財に指定されました。船としての重要文化財指定は明治丸が初めてです。現在、東京海洋大学(東京都江東区／越中島キャンパス)にて保存されています。

画像提供 東京海洋大学



## 国登録有形文化財 雲鷹丸(うんようまる)

雲鷹丸は、1909(明治42)年に建造された3本マストのバーク型帆船です。東京水産大学の前身である農商務省水産講習所の練習船として、大阪鉄工場桜島工場で建造されました。建造当時は遠洋漁業が強く推進されており、雲鷹丸には捕鯨を含むすべての漁業に関する実習、試験、調査、漁獲物の船内処理、加工、また海洋観測を行うなどの機能が盛り込まれました。1909(明治42)年5月から1929(昭和4)年8月まで20年間にわたり33回の航海を行い、捕鯨実習をはじめ、漁業調査、学生実習、漁労技術・漁具開発等に多くの貢献をし、漁獲物処理では船上でのカニ缶製造に成功し、後の大型蟹工船の先駆けとなりました。1929(昭和4)年に老朽化のため引退し、1932(昭和7)年より係留練習船として活用されました。1945(昭和20)年12月の水産講習所越中島校舎接收後は岸壁に放置されたままの状態となりました。1962(昭和37)年に喫水線上部を解体して東京水産大学(東京都港区／現東京海洋大学品川キャンパス)に移送し、現在の保存場所で組み立てられました。雲鷹丸は、国産鋼製帆船としては現存最古のものです。1998(平成10)年12月11日に貴重な海事資料としての価値が認められ、国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

画像提供 東京海洋大学



## 国指定重要文化財 帆船日本丸(はんせんにつぼんまる)

帆船日本丸は1930(昭和5)年に神戸の川崎造船所で建造された、4本マストのバーク型帆船です。国の練習帆船として、引退するまでの54年間に11,500名もの実習生を育て、わが国の海運を担う多くの人材を社会へ送り出しました。太平洋戦争中は帆装を撤去し、瀬戸内海で石炭輸送に従事しました。また、戦後は上海や釜山、シンガポール等からの引揚者の帰還輸送、また朝鮮戦争の際には特殊輸送(米軍人、韓国避難民輸送)にも従事しました。1952(昭和27)年に帆装を復帰し、実習生を乗船させて、南方への遺骨収集航海を実施しました。1953(昭和28)年度から本来の遠洋航海を再開し、夏から秋には北アメリカ西岸、カナダ沿岸、冬期はハワイ諸島への実習訓練を行いました。また、海外での記念行事への派遣要請にこたえ、1960(昭和35)年の日米修好通商百周年祭参加航海や1970(昭和45)年のオーストラリア・キャプテンクック二百年祭参加航海などを実施。寄港地でのセールドリルや船内の一般公開など、戦後日本の国際親善の面でも大きな役割を果たしました。昭和史に大きな役割を果たした帆船日本丸は1984(昭和59)年に引退し、翌年から横浜みなとみらい地区にある旧横浜船渠株式会社第一号ドック(2000(平成12)年国指定重要文化財)に係留保存され、船内の一般公開、すべての帆をひろげる総帆展帆(そうはんてんぱん)、帆船での実習訓練の一部を体験する「海洋教室」などの事業を行い、海と船に親しむ事業を実施しています。2017(平成29)年の海の日には天皇皇后両陛下(当時)の行幸啓が行われました。また同年9月15日には、わが国の海運の発展に貢献したことや希少な戦前期建造の帆船であることなどから国の重要文化財(美術工芸品)に指定されました。(写真 全ての帆を広げた帆船日本丸／横浜みなとみらい地区で年間12回ほど開催される、29枚すべての帆を広げた姿。かつてその美しさから「太平洋の白鳥」と呼ばれた)



### 横浜港のシンボル「帆船日本丸」

横浜みなとみらい地区に係留保存される帆船日本丸

海事技術の基本的な要素が体得できる帆船実習は、明治時代より船長や運転士(航海士)になるための必要な要件でした。しかし、全国で使用されていた練習帆船は小型のものが多く、実習中の海難事故が絶えませんでした。1900(明治33)年の東京高等商船学校の練習船月島丸をはじめとして、25年間に11隻の練習帆船が遭難しました。相次ぐ遭難に関係者は大型帆船の建造を検討しましたが、第一次世界大戦後の不況で実現できませんでした。しかし、1927(昭和2)年の鹿児島商船水産学校(現鹿児島大学水産学部)練習船「霧島丸」が、銚子沖で暴風雨のため遭難、生徒・職員53名全員が行方不明となる大惨事がおきました。この霧島丸遭難が契機となり、実習訓練用の2隻の大型練習船「日本丸」「海王丸」が建造されることとなり、帆船日本丸が誕生しました。

鹿児島大学水産学部には、このことを伝える遭難碑が設置されています。



### 壮烈碑

1930(昭和5)年頃に建立された、霧島丸の遭難事故を伝える石碑。鹿児島大学水産学部構内にある。上部の「壮烈」の文字は東郷平八郎元帥の揮毫。この碑はその歴史的意義から2018(平成30)年5月、日本船舶海洋工学会により「ふね」遺産に認定された。鹿児島大学水産学部には「帆船日本丸」の模型も保管されている

画像提供 国立大学法人鹿児島大学

### 県立鹿児島商船水産学校 練習船「霧島丸」遭難碑

霧島丸の遭難は帆船日本丸建造のきっかけとなった。鹿児島大学水産学部構内にこの碑がある。県立鹿児島商船水産学校は鹿児島大学の前身(碑文の一部を下記に掲載)



画像提供 国立大学法人鹿児島大学

### 【県立鹿児島商船水産学校 練習船「霧島丸」遭難碑 碑文】

県立鹿児島商船水産学校 練習船「霧島丸」遭難碑

1927年(昭和2年)3月9日、練習船「霧島丸」は南洋マーシャル諸島への遠洋航海途上、犬吠埼沖130km付近で暴風に遭遇し舵機を損じ、SOSを打電した後、連絡が途絶え行方不明となった。

その後、軍艦、航空機、練習船、民間船、漁船、漁業調査船など多くの協力を得、50日余り大規模な捜索を実施したが、一片の遺品も発見できず、船長以下乗組員23名及び実習生30名、計53名全員が殉職した。これは当時、練習船最大の海難事故であった。これを契機として世論が高まり、文部省は1930年(昭和5年)、全国11校の県立商船学校用として大型練習帆船「日本丸」「海王丸」の2隻を建造し、日本の海技教育の充実がはかられた。このとき唯一製作された「日本丸」の模型は現在鹿児島大学水産学部が保有している。

この遭難碑は霧島丸殉職者53柱を慰霊するため1930年(昭和5年)に建立されたものであり、爾来毎年3月9日には関係者がこの碑の前に集い、慰霊祭がとり行われてきた。(以下略)



### 帆船日本丸の姉妹船 海王丸(かいおうまる)

帆船日本丸の姉妹船海王丸は、1930(昭和5)年に神戸の川崎造船所で建造された4本マストのバーク型帆船です。姉妹船・日本丸と同様に船員養成に活用され、引退するまでの59年間に11,190名もの実習生を育て、日本海運界に優秀な人材を送り出してきました。帆をひろげた美しい姿は「海の貴婦人」と呼ばれました。1960(昭和35)年の日米修好通商100周年記念祭では、東京からサンフランシスコ、モンレー、ハワイ・ホノルルへの航海に日本丸とともに参加しました。

1989(平成元)年に引退し、翌年から富山県新湊市(現射水市)で一般公開を開始しました。年間10回ほどすべての帆をひろげる総帆展帆を行うほか、子どもたちを対象とした海洋教室を行っています。

海王丸は、2018(平成30)年7月20日に歴史的・文化的な価値が認められ、日本船舶海洋工学会より「ふね遺産」に認定されました。また、昨年2020(令和2)年に、一般公開30周年記念式典を実施しました。

(写真 総帆展帆の海王丸(かいおうまる)(初代)／右の橋は日本海側最大級の斜張橋である新湊大橋)

画像提供 公益財団法人伏木富山港・海王丸財団



### 立山連峰を背景に夕日をうける海王丸

画像提供 公益財団法人伏木富山港・海王丸財団

海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念 令和2年度横浜みなと博物館企画展「日本の練習船～海の上の学校」

2021年2月27日(土)～5月9日(日) 会場:横浜みなと博物館特別展示室 公益財団法人帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体

(助成:みなとの博物館ネットワーク・フォーラム/後援:海洋都市横浜うみ協議会、神奈川県教育委員会、横浜市港湾局)

(2021年3月31日現在)